

菊本副院長の漢方問答 その65



問 「生活習慣病の漢方治療とは

どのようなものですか?」③

答 肥満と関係が深い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」などの生活習慣病に関する漢方治療について、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」には記載されていますが、当院でよく処方されるお薬に関して、お話しします。

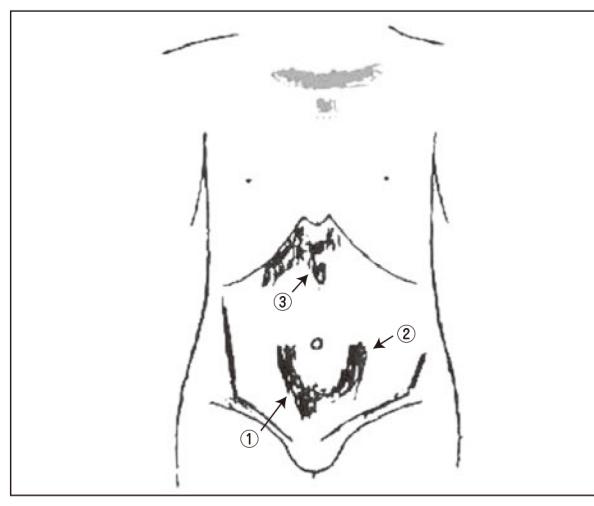
今回は、「六味地黄丸」です。六味地黄丸は、「小兒直訣」という書物で紹介されています。構成生薬は、地黃、山藥、山茱萸、牡丹皮、沢瀉、茯苓です。「もともと元氣がない子どもで、声が出なくて、視線が合わず、精気が感じられず、白目がちで、顔色が青白いときに用いる」と記載されています。

図は、私の漢方の師匠が描かれた

六味地黄丸の腹証図です。①は、ぼ

れが悪くなり（水滯といいます）、尿が出にくくなっています。地黃と沢瀉が有効で、水の流れを改善し、尿を出しやすくなります。②は、下腹の深いところの血の流れが悪くなっています（瘀血といいます）を表しています。牡丹皮が有効で、血の流れを改善し、女性であれば、生理をととのえてくれます。③は、お腹の上の方で、水の流れが悪くなっている（水滯）を表しています。茯苓が有効で、水の流れを改善し、むくみをとってくれます。山藥と山茱萸は、からだを元氣づけてくれます。要するに、六味地黄丸は「水の流れを改善し、尿を出しやすくなる」と（水滯）を表しています。

んどありません。多くの方では、水の流れが悪くなつていると同時に、からだの表面付近の、浅いところの血の流れも悪くなつてゐるため、前回お話した四物湯から治療を開始することが多いようです。四物湯を服用していただき、からだの浅いところの血の流れが改善した時点で、六味地黄丸にお薬を変更させていただきます。



図

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名（ペンネーム）、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール:information@ideshita-clinic.jpのいでしたクリニックとわえもあ編集係まで送付ください。